

1. 研究目的

文部科学省の調査によると、現代の子供は、テレビゲームなどで遊ぶ子供が増えているが、このような遊びは暴力性、社会的不適応、視力、体力などに対する悪影響の他に、子供の脳の発達を阻害されたりする原因になっているようだ。その要因として、電磁波、ゲームの暴力シーンにより「ゲーム脳」になってしまうことが上げられる。そこで機械を使わない絵本を制作することにした。

ただの絵本ではなく、ポップアップ絵本にすることで、実際に触ったり、動かしたりすることで子供の発想力を育てられるような絵本ができるのではないかと考え研究することにした。

2. 調査と分析

以下の調査、分析をもとに制作を進めた。

今回の調査で最も重要なことは、発想力を育てた方が良いということである。なぜなら「発想力を育てる」というサイトによると、現代は発想力や想像性が問われる機会が増えてきているからである。

- (1) 今の子供たちにもっとも危惧することは、発想力が低下していることである。
- (2) 発想力を鍛えたほうが良い理由は、今子供の学力低下が問題になっているが、その学力向上に発想力が重要であること。発想力の差が成績を左右し、さらには理系・文系という将来の進路まで決定づけることもある。
- (3) 「0歳からの教育」によると、発想力が習得されるピークは幼児から小学校低学年までである。

3. コンセプトの立案

調査と分析をもとに「楽しく子供の発想力を育てる絵本」というコンセプトに設定した。

- ・自宅や保育園など手軽に持ち運んで好きな時に遊べる。
- ・見るだけでなく自ら考え、作り上げていく絵本を提案する。

4. デザイン展開

上記を踏まえた上で、ポップアップの仕掛けよりも子供の発想力を育てることに重点を置き、シール絵本と融合することで見るだけでなく動作を加え、自ら考えて遊べるようにした。子供をターゲットにしているの

で題材を動物にし、内容も物語調にした。調査結果から、日本人の英語力は他の外国に比べて低いことが分かったため、英語も学べるようにした。シールを貼る部分に英語が書いてあり、分からない単語があれば、親に聞きながら遊べるようになっているため、親子のコミュニケーションも図ることができる。例えば季節ごとに木にパーツ貼る。動物に合わせた食べ物を貼る。といった形になっている。これにより、植物や動物の生態系と英語を同時に学ぶことができ、自ら考えてパーツを貼っていくため、発想力も鍛えられる。

子供に親しみやすくするために、動物のイラストを使用し、カラフルな色使いにした。

5. 完成図



図1 季節を学ぶ



図2 動物の食を学ぶ



図3 動物の住処を学ぶ

6. 結論

検証の結果、イラストがかわいいやこんな絵本があったら子供の教育が充実するのではないかなど、肯定的な意見を頂く事ができた。改善点として、もっと何度でも遊べるようにした方がよいのではないかなど、の貴重なご意見を頂いたので、仕掛けをもう少し複雑にし、シールを貼る以外の楽しみ方が出来る工夫があればより良かったのではないかと考える。

文献

- [1] ロバート・ザブダのしかけ絵本『冬ものがたり』
- [2] 手作り絵本作り方教室
<http://www.picture-book.org/pop-ups/html0/1theory.html>
- [3] 文部科学賞, 子供とテレビゲームの現状
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/04033001/003.htm
- [4] 2013 年版『0歳からの教育』, 株式会社阪急コミュニケーションズ, 五百井健至
- [5] 発想力を育成する<狛江市の塾>寺子屋一心舎
<http://www.terakoya148.jp/生きる力/感性/発想力/>